



ちよっといい話

シリーズ③

トンボ天国の自然環境は自分たちの力で守る!

竹や雑木を伐採すれば下草が育ち、土や砂が池に流れ込まなくなり、ヤゴや水草により環境が整います。

笠松町には、「笠松トンボ天国」という「ぎふ水と緑の環境百選」にも選ばれたすばらしい場所があり、トンボが約30種、水生植物が約60種も生息しています。国土交通省の支援もあり、池の周りの小道を中心に整備され、笠松の新名所になりました。

しかし、夏になるとトンボ天国の周辺には、背丈ほどもある竹や雑木などが育ち、クローバーやオオバコなどの下草が枯れてしまうようになり、雨が降るたびに池に土や砂が流れ込みはじめました。

流れ込んだ土砂は水を濁らせ、ヤゴや水草に悪い影響を与えるようになりました。

3年前から、「トンボ池を守る会」「下羽栗地域の町内会」「道徳のまち笠松」の関係者をはじめ、「NPO法人 竹環境保全推進協議会竹人」「NPO法人 元気きそがわ」「下羽栗小学校PTA」、地元企業、一般ボランティアが協力して、竹や雑木の伐採を行っています。

朝8時から1時間ほどの作業で、トンボ天国の周りは見違えるほどきれいになりました。

今年も7月13日(日)午前8時から実施する予定です。笠松の自然環境を自分たちの手で守る活動に、ぜひご参加ください。



← 竹や雑木の伐採をする皆さん



→ 伐採作業を終え集合する皆さん

身近で「ちよっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどご連絡ください。お待ちしております。  
☎388-3926 FAX388-3233  
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かきまつの民話「昔むかし」

田代の龍①

むかし、田代に、八幡さまがあつた。

境内には、一本の、古びた松の木があつた。遠くからでも見える大きな木であつた。それを人々は、「おばけ松のお宮」とよんでいた。

このおばけ松は、天にもとどくばかりの大きさで、まるで小山のようであつた。その上、何百年もたつた幹には、こけがはえていて、途中に大きな穴があいておつた。このおばけ松のある八幡さまは昼でもうす暗く、村人たちは、だれも近づこうとしなかつた。

このおばけ松について、ふしぎな話が広まつたのは、今から三百年ほど前のことだ。

「こんな日でも続きじゃ、田植えもできんなあ。」

「いったい、いつになつたら雨が降るんじやろ。」  
男衆は、すっかり困りはてて、八幡さまの境内に集まつた。

それもそのはず、この年は、七月というのに、一月あまりひとつぶの雨も降らなかつたのじや。

「もうどうにもならん。」  
と、だれもがあきらめかかつておつた。

そのとき、村はずれに住む若い弥助が、とつぜんさけんだ。

「なあ、みんな。わしのいうことを聞いてくれ。あきらめるのは早いぞ。」  
弥助のことは、しずみきつていた男衆をわきたせた。

(つづく)

